



～常設展リニューアルに向けて～

徳島県立博物館常設展への思い

なかむら ゆか
中村由香（友の会会員）

これが見納めと思いながら、2020年8月30日に、私は徳島県立博物館の常設展を一人で見学に参りました。「また来年ね。また新しくなった常設展で会いましょう！」という気持ちで、ひとつひとつの展示物を見てまわりました。その日の夜は、愛知県で一人暮らしをしている息子に「最後の常設展を見てきたよ」と電話で報告をしました。なんだか寂しいような、でも新しく生まれ変わるという楽しみもあり、リニューアルオープンするその時を待とうと思っていました。

徳島市内に転勤した後、当時4歳だった息子と一緒に旧常設展には何度も足を運びました。ティラノサウルスの全身骨格を熱心に眺め、銅鐸を鳴らし、鷲の門の大きさに圧倒され、帰り際には必ずウツボが顔を出すのを確認したことを昨日のように覚えています。また、週末には展示物を熱心に見て回り、アンモナイトの化石をもらえるように、クイズラリーのスタンプ



旧常設展の「日本列島と四国のおいたち」コーナー



旧常設展の徳島城鷲の門

を集めました。このような楽しい思い出がたくさんあります。

これまで、転勤や旅行のたびに博物館好きの息子と一緒に、各地の博物館を見てきました。兵庫県立人と自然の博物館、愛媛県総合科学博物館、北九州市立いのちのたび博物館、東京国立博物館、大英博物館…。そして、徳島県立博物館は、息子の成長とともに家族での楽しい時間をたくさん過ごした思い出の詰まった特別な場所です。

2021年8月9日、徳島県立博物館新常設展グランドオープンのニュースを、私は職場で、患者さんとともにテレビで拝見しました。つい



旧常設展のラプラタ記念ホール



新常設展ミュージアムストリートにて

にグランドオープンしたと嬉しくなり、博物館のお話をしながら、「元気になったら一緒に行こう！案内するから」と笑顔で話しました。新常設展を見に行きたかったのですが、8月は来場者が多いだろうと思い、9月中旬の少し落ち着いたところに、博物館に行くことにしました。

新常設展を見ての感想は「すごい！」の一言です。展示物の見せ方や体験型展示の工夫など、学芸員の皆様の熱意を感じるものばかりでした。そして何より、実物資料の多いこと！初めて見るものもたくさんあり、「これは1日では足りないな、何度も来てじっくり見ていかないと。」と実感しました。新常設展は、進化していました。訪れるたびに新しい発見があると感じました。

私が来場した時には、子ども連れの家族が来場されていました。4歳ぐらいの女の子が阿波



阿波踊り体験のコーナー



新常設展の「地球と生命の歴史」のコーナー

踊りを始めると、両親も一緒にリズムをとって踊り始め、女の子は満面の笑みで両親を見ながら踊っていました。そして、ウツボが動くのを発見して両親に「あれ見てみて、出てきたよ！」と喜んでいました。まるで、かつての自分と息子が初めてウツボが動くことに気づいた時を見ているようでした。

リニューアルオープンした常設展でも、これからたくさんの方々が来場されることでしょう。そして、それぞれのかげがえのない思い出や学びの場となっていくことと思います。『徳島まるづかみ』をテーマとした常設展リニューアルオープン、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます！



新常設展の「生物の多様性」コーナー

父と戦争

おおすぎようこ
大杉洋子 (友の会会員)

こぼんのう
子煩悩な父でした。「物」の豊かな時代ではありませんでしたが、父は子どもの私に精一杯のことをしてくれたように思います。幼い頃ころから私は、毎晩のように父に「お話、して」とせがんでいました。仕事で疲れていたでしょうけれど、父はいろいろな「お話」をしてくれました。何より強く心に残っているのは、小学校5・6年生の頃に聞いた「戦争」の話です。

太平洋戦争が始まり、船乗りだった父は輸送船の船長として物資を運んでいました。戦争の末期には、千島列島・樺太(サハリン)・北海道に残っている兵隊さんを故郷に連れて帰る任務を受けました。お小水しょうすい(小便)がたちまち氷の棒になった極寒の中、父は左手薬指の第一関節から先を凍傷とうしょうにより失っていました。

当時は、何事も「軍の命令・指示」に従わなければならない時代でした。しかし、兵隊さんたちに任務の苦労や長旅の疲れを癒いややしてもらいたくて、父は軍の許可を得ずに青森の浅虫温泉あさむしに船を着けました。つかの間の休息は、兵隊

さんたちにたいそう喜ばれたそうです。

その後、再び船を進めていると、厳しい戦争の現実が待ち受けていました。三陸沖を南下中でした。甲板で兵隊の隊長と父と船の機関長の3人が話をしていた時のことです。突然、背後から敵戦闘機による銃撃を受けたのです。3人のほんのわずかな立ち位置の違いが、生死を分けました。「ハッと気がつくと、さっきまで一緒に話をしていた両脇の二人は、見る影もなくなっていた」そうです。操舵室そうたもなくなっていたそうです。たださえ運航に危険はつきものです。その後、夜の闇やみの中で星を頼りにコンパスや定規で航路を判断し、動力を失った船を潮流に乗せて陸をめざしたそうです。

父には、戦友からの年賀状がたくさん届いていました。感謝の言葉や、近況が書かれたハガキを嬉しながそうに眺め、大切に保管していた父の姿を思い出すたびに、しみじみと平和のありがたさを感じます。

コロナ禍2度目の夏。ふと亡き父のことが思い浮かび、筆を執りました。困難な状況の中にあっても、日常の中の幸せを感じとりながらの人生でありたいと願っています。



日本周辺地図



浅虫温泉の位置

友の会行事報告

化石を探そう！

- 日 時 5月29日(土) 13:20～15:30
- 場 所 文化の森総合公園
- 担 当 こうさかとしゆき さかい
幸坂敏行, 坂井なつ (友の会役員)
つじの やすゆき なか おけんいち
辻野泰之, 中尾賢一 (博物館学芸員)
おぶ せしやうた
小布施 彰太 (博物館職員)
まるやまなお き
丸山直生 (博物館係長)

- 参加者 35名

例年より早く梅雨入りし、天候を心配していましたが、当日は夏日の強い日差しに体力を奪われるほどでした。新型コロナウイルス感染拡大防止対策をはじめ、ハンマーの正しい使用方法等の説明後、待ちに待った化石さがしが始まりました。

開始早々「これは、化石ですか?」「何の化石ですか?」という質問が相次ぎました。「これは植物の化石ですね。恐竜が食べていたかもしれないよ…」という学芸員のひと言で、恐竜が生きていた当時の様子を想像しながら石を割ることができました。

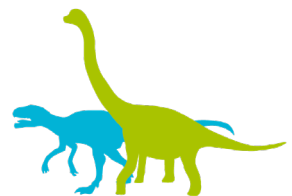
その後も植物化石が次々と見つかりました。「また、植物かあ…」という本音も出始めましたが、ちょうどその頃「これは・・・巻き貝ですね!」「やったー」という歓喜の声が上がりました。



これは化石ですか？

学芸員が「植物化石の表面には凹凸^{おうちつ}があり、光が乱反射するためキラキラするけれど、魚のうろこや恐竜の骨などは表面が滑らかなため、比較的落ち着いた色合いの光を放つ」という見分け方の極意を参加者の方々に伝授しました。それを聞いていた男の子が、化石を見つけて「これはキラキラしているから植物だ。もっと落ち着いた色合いに光るものをさがそう!」とつぶやきました。その声の周辺には、笑顔と和やかな雰囲気が広がっていました。

(丸山直生)



化石を見つけるぞ～！



ハンマーで石を割り化石を探す

Voic^e 参加者の声

●^{なかむらさやか}中村佐也加さん、^{あい}愛さん

初めて参加しました。子どもたち3人も、ハンマーで石を割るのが楽しかったようです。光をあててその輝き方で、植物か恐竜の化石かわかるものなんだなあと思議に感じました。貴重な体験ができてよかったです。(佐也加)

なんのかせきがみつかるかわくわくしました。(あい)

●^{ふくだふきよ}福田富紀代さん

ハンマーを握る手に力をこめ、1億3千万年前の地層といわれている「ボーンベッド」の岩石を割り、その都度目を皿のようにして化石を探するという、とてもワクワクの楽しい時間でした。「恐竜の化石」を見つけることはできませんでしたが(笑)、植物や貝の化石をたくさん見つけることができ、「この植物はどんなふう

●^{もりおかまき}森岡真紀さん、^{りょう}諒さん

当日は梅雨の中休みの晴天で、化石を判別しやすい絶好のコンディションでした。博物館に寄贈できるような化石の発見を期待しながら、息子と楽しく石を小割りしました。植物化石をはじめ、巻き貝や二枚貝の化石を見つけては、二人で成果を見せ合ったり、学芸員さんたちにアドバイスをいただいたりして、化石さがしを満喫しました。

今回は博物館に寄贈できるような化石を発見することはできませんでしたが、「トリゴニオイデス(二枚貝)」の特徴的な模様が確認できる化石を持ち帰ることができました。また、卵型のカプセルに入った「恐竜フィギュア」を参加賞としていただき、息子はとても喜んでいました。

●^{むかい やなぎ}向 大風さん

中尾賢一学芸員にお会いすることが出来て嬉しかったです。たくさんの方からの申し込みがあったようですが、日時を変更してでも、もっとしっかり化石を探し、勉強させてほしかったです。

友の会行事報告

夜の文化の森たんけん！ブラックライトで光るものさがし

- 日 時 8月28日(土) 19:00～20:30
- 場 所 文化の森総合公園
- 担 当 ^{ゆきなりまさあき}行成正昭(友の会役員)
^{おがわまこと}小川 誠(博物館自然課長)
^{まるやまなおき}丸山直生(博物館係長)
- 参加者 15名

小川誠学芸員から、「ブラックライトの取り扱い」や「藍の葉っぱエキスがブラックライトで光る不思議な現象」についての説明を受けた後、配付されたブラックライトを手に、光るものものさがしを楽しみました。

「ガチャ、ガチャ、ガチャ、ガチャ…」とクツムシの鳴き声が響く夜の遊歩道で、足元や周辺のものにブラックライトを当ててみると、木の葉っぱやドングリが放つ赤や青の光が暗闇に浮かび上がりました。また、金色に輝く地衣



光るもの探しに出発！



小川学芸員の解説を聞く

類もあり、神秘的な現象に参加者は大興奮でした。

博物館裏山に広がる星空を見上げ、「これほど沢山の星があることに今まで気が付かなかった」という声がありました。また、夜景も美しく「我が家は見えるかなあ」と探す参加者の姿もありました。昼間とは違う夜の自然観察会は、時が経つのを忘れるほど、驚きと感動の連続でした。(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●小林 恵さんこばやしめぐみ

5歳の息子と参加させていただきました。夜の森を歩くこと自体が初めてのことで、ワクワクしました。詳しい説明をしていただきながら、家族3人で光るものを探しました。とても楽しかったです。ありがとうございました。



光るものを探して

友の会行事報告

浜辺の宝探し ～ビーチコーミング入門～

- 日 時 9月25日(土) 10:00～12:00
- 場 所 美波町田井ノ浜
- 解 説 はまなおひろ 濱直大さん(とくしま海の観察会会長)
- 担 当 ほんだ そういち ゆきなりまさあき 本田壮一・行成正昭(友の会役員)
いばらぎやすし 茨木靖(博物館学芸員)
まるやまなおき 丸山直生(博物館係長)

○参加者 12名

講師の濱直大さんにビーチコーミングの魅力や注意事項を教えていただきながら、美しい砂浜で、贅沢な時間を過ごしました。ビーチグラスや貝がらをはじめ、講師や担当学芸員がビックリするほど珍しい「タシロマメ」という、遠い南の島からやってきた植物の種子も見つかりました。(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●沢野 誠司さんさわの せいじ

以前から、海で流木や貝を拾ったりすることはありましたが、その道を極めた方々と一緒に話を聞かせていただきながら、軽石や海外から流れてきた植物の実などを見つけるのは、息子も私も本当に楽しかったです。徳島市内とは



ビーチコーミングの様子



とくしま海の観察会会長 濱さんによる解説

まったく違うビーチコーミングの体験になりました。

こばやしめぐみ
●小林 恵さん

子どもと参加しました。普段は気にも止めていない「浜辺に落ちているもの」も、どこから流れてきたのかを考えてみると、今までとは違ったものに見えました。とても面白い経験になりました。これから海へ行くときは、漂着物にも目を向けてみたいと思います。

かたべ にちか
●形部 仁悠さん

昨年、コロナウイルスの流行で学校が休校となり、どこにも行けなくなった時、海でシーグラスを探すことが唯一の楽しみでした。そのときは、シーグラスや貝殻ばかり集めていました。「浮き」や「植物の実・種」には興味がありませんでした。でも、ビーチコーミングの展示を見て、海外から漂着した漂流物も見つけられることを知りました。

今回、「浮き」や「植物の実・種子」を見ることができました。また、友の会のみんなで行ったので、拾った漂着物を見せ合ったり、交換したりしてとても楽しかったです。これから、いろんな海岸に行ってビーチコーミングしてみたいと思いました（お宝を見つけたいです）。

報告 2021年度総会

令和3年度の友の会総会を、4月24日(土)14時30分より博物館3階講座室にて開催しました。新型コロナウイルス感染の防止対策として、窓を開け、席の間隔も十分に広げて行いました。

議事につきましては、2020年度事業報告・決算報告、監査報告、役員改選、2021年度事業計画・予算について審議した結果、すべて承認されました。

開会にあたり、行成正昭会長より「コロナ禍において、これだけの行事を実施できたのは、会員や博物館職員のおかげと感謝しています。今年度も、新型コロナウイルス感染拡大がいつまで続くか予測できないので、友の会行事の計画がどの程度できるかわからない状況であることをご理解いただきたい」というお話がありました。

1. 令和3年度友の会行事

(1)化石をさがそう！（勝浦産の岩石から）(終了)

実施日：5月29日(土)

場 所：文化の森総合公園

(2)夜の文化の森たんけん（自然の中で生きものかんさつ）(終了)

実施日：8月28日(土)

場 所：文化の森総合公園

(3)浜辺の宝ものもの探し～ビーチコーミング入門～(終了)

実施日：9月25日(土)

場 所：海部郡美波町(田井ノ浜)

(4)お祭りを見にいこう！

(川田八幡神社の秋祭り)(中止)

実施日：10月22日(金)

場 所：吉野川市山川町(川田八幡神社)

(5)拓本をとろう！（終了）

実施日：11月6日(土)

場 所：文化の森総合公園

(6)徳島城を歩こう！（終了）

実施日：12月5日(日)

場 所：徳島市

(7)銅鐸をつくろう(終了)

実施日：12月11日(土)
場 所：文化の森総合公園

(8)新常設展 展示解説

実施日：2月12日(土)
場 所：博物館常設展示室

2. 広報活動

博物館広報印刷物(月別催し物案内・企画展チラシ・博物館ニュース・文化の森から等)を提供します。

3. 図録の販売

常設展図録『徳島まるづかみ“いのち”と“とき”のモノ語り』, 企画展図録『徳島おふだコレクション～はらいたまえ きよめたまえ～』の販売をします。

4. 友の会会報の原稿募集及び発行・配布

会報「アワーミュージアム」No. 68・69 の発行・配布をします。

5. 会員募集

- (1)来館者に案内チラシを配布します。
- (2)博物館普及行事において, 参加者に友の会の案内を行います。

6. 友の会グッズの販売

ポストカードとクリアファイル2種(自然・人文), 缶バッジ4種の販売をします。

7. 令和3年度 友の会役員

- 会 長：行成 正昭
 副会長：大杉洋子, 徳野壽治, 新居美佐子(館長)
 幹 事：幸坂敏行, 結城孝典, 本田壮一, 坂井なつ
 監 査：石尾和仁, 中村由香
 事務局長：長谷川賢二(副館長)
 事務局員：大橋俊雄(課長), 小川 誠(課長),
 森 篤之(課長補佐), 丸山直生(係長),
 茨木 靖, 磯本宏紀(学芸員)


新スタッフ紹介




● 森 篤之(企画担当課長補佐)

前任校の, 阿南市阿南第一中学校では, 技術・家庭科の技術分野を担当していました。現在は, 車で1時間程かけて, 県立博物館に通勤しています。

毎年, 技術・家庭科の作品展では展示会場として利用させていただき, 子どもたちは「文化の森の作品展」を目標に授業に取り組むことができました。着任後の業務の中で貴重な資料の豊富さに驚きました。毎日が新しい発見と驚きの中, 充実した緊張感を持って勤務しています。また, リニューアルグランドオープンの際に立ち会えたことで常設展の素晴らしさをさらに多くのお客様に感じていただきたいと感じております。コロナ感染のリスクを防ぐため, 本来, 成長のために必要な刺激や経験が欠如し, 子どもたちは心身の発達が遅延, 減退するというリスクを抱えているという現実も考慮し遠足の対応にも取り組みたいと思います。皆様が築いてこられた友の会のスタッフとして, 活動に貢献できるよう一生懸命取り組んでまいります。どうぞよろしく願いいたします。

アワーミュージアム 第68号

2021年12月31日発行 : 徳島県立博物館友の会
 〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内
 TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197 E-mail: mus-fukyu@bunmori.tokushima.jp